LIFEを活用した多職種連携
～介護職員の視野の広がり～

社会福祉法人聖啓会特別養護老人ホーム菜の花

特別養護老人ホーム 菜の花

特別養護老人ホーム 菜の花

LIFE導入のきっかけ

加算

入居者さん

介護職

繋がろう

LIFE導入
事前準備

ステップ 1

LIFEとはどのようなものか？

ステップ2

菜の花でのLIFEの位置づけ

ステップ 3

組織の見直し

特別養護老人ホーム 菜の花

LIFEとはどのようなものか？

メリット

- 入居者様の状態を客観的な視点からとらえることができる
- 客観的な視点、全体像をとらえることで、予測したケアに取り組むことができる
- 介護職からの発信
- 介護過程と同様、介護職としての思考の展開を培うことができる

等

デメリット

- データ入力、期間管理は誰がする？
- ＱＯＬではなくＡＤＬが重要視されるのではないか？
- データは提供できてもフィードバックの活用方法がわからない
- 評価指標であるバーセルインデックスは入居要件介護度3以上である特養には合わないのでは？

等

菜の花でのLIFE
の位置づけ

「健康診断」

- 例えば：健康診断結果
  尿酸値　基準範囲2.1～7.0
  健康診断で要注意の9.0以上
  →このままでいくと！！！！！
  ⇩
  痛風発作・腎機能障害・尿路結石
  ⇩
  病気にならないためにはどうすればよい
  ⇩
  健康管理：看護師　　食事相談：栄養士
  運動助言：機能訓練士
  悩み相談や日頃の状態把握：介護職員

菜の花でのLIFE
の位置づけ
「私たちの
仕事とは・・」

- 介護の仕事とは

  ☟

  「生きる」ことを支える仕事

  ☟

  最期まで「感情を豊かに」

  ☟

  向上するADLもあれば、当然衰え失われていくADLもある。【向上だけではない評価指標】はあるが前提。加算がかかると時としてADLとQOL！の壁が！！悩んだときはご本人に伺う。
  ご本人の意思表示が難しいときは施設の【理念】、菜の花の介護方針をもとにご家族に伺っていく
  【数値】＝【その人】ではない。

菜の花でのLIFE
の位置づけ

「視野を広げるツール」

科学的推進体制加算

＋

褥瘡マネジメント加算

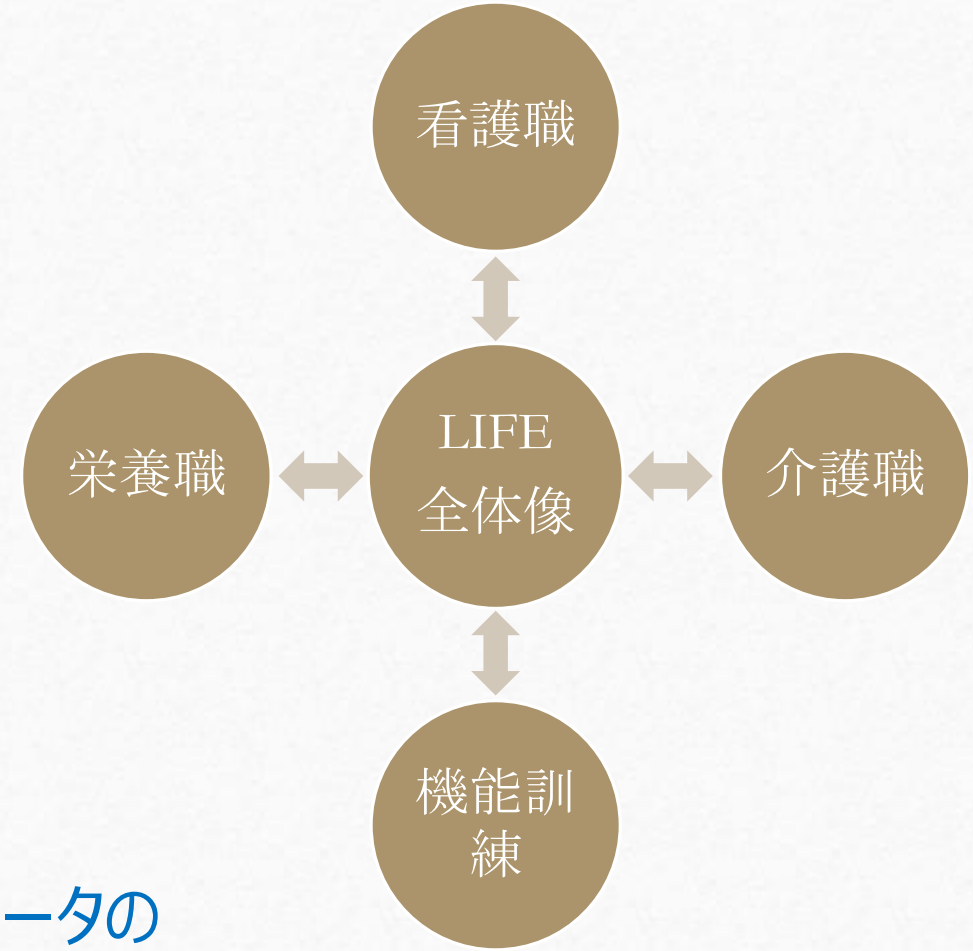
＋

排泄支援加算

＋

自立支援促進加算

＝ 「入居者の（数値上）全体像」
「介護職員の視野拡大」
「専門職種ごとの分析」



❀複数の加算を組み合わせることでデータの深堀が可能となる

組織の見直し

- 各種加算の期間管理
- データ入力とアセスメント
- フィードバック票の分析
- 分析結果の活用
- ケアプランと各種支援計画
- 介護現場との乖離を防ぐ

・施設ケアマネを1名から2名へ増員
・ケアマネ業務と介護現場業務の兼任
・データは「材料」、データの記録は「目的」ではない。
・介護職員の役割（意識）と日々の介護記録の見直し

介護職員の意識改革

ステップ 1

数値に対するアンテナを高めよう！

ステップ2

気になることはすぐ聞こう！

ステップ 3

生活は点ではなく線、面！

特別養護老人ホーム 菜の花

数値に対するアンテナを高めよう！気になることはすぐ聞こう！

<ケアを行う中で触れる数値>

・水分量
・食事量（提供カロリー、摂取カロリーなど）
・体温、血圧、サチュレーション、呼吸数
・排泄回数（自尿、失禁、パット交換などを含む）
・入浴回数（拒否で清拭、体調不良で清拭など）
・体重　・BMI
・BNP　・アルブミン
・尿蛋白　・尿潜血
・室温　・ナースコール回数

まだまだあります。

- 【数値】データを提供することは【数値で評価できる範囲内】ではあるがその人のすべてを把握することつながる

一人一人のケアのアセスメントが入力作業を通じて行うことが可能

例：前回に比べ栄養状態が低下している、そのほかはどうなのだろうと関心をもつことができ、ひいては数値を通じてその人の全体像をつかむことができる

数値から得た予測分析をケアに落とし込む＝介護過程における思考の展開と実践の展開につないでいけるなどのメリットがある。

特別養護老人ホーム 菜の花

生活は点ではなく線、面！

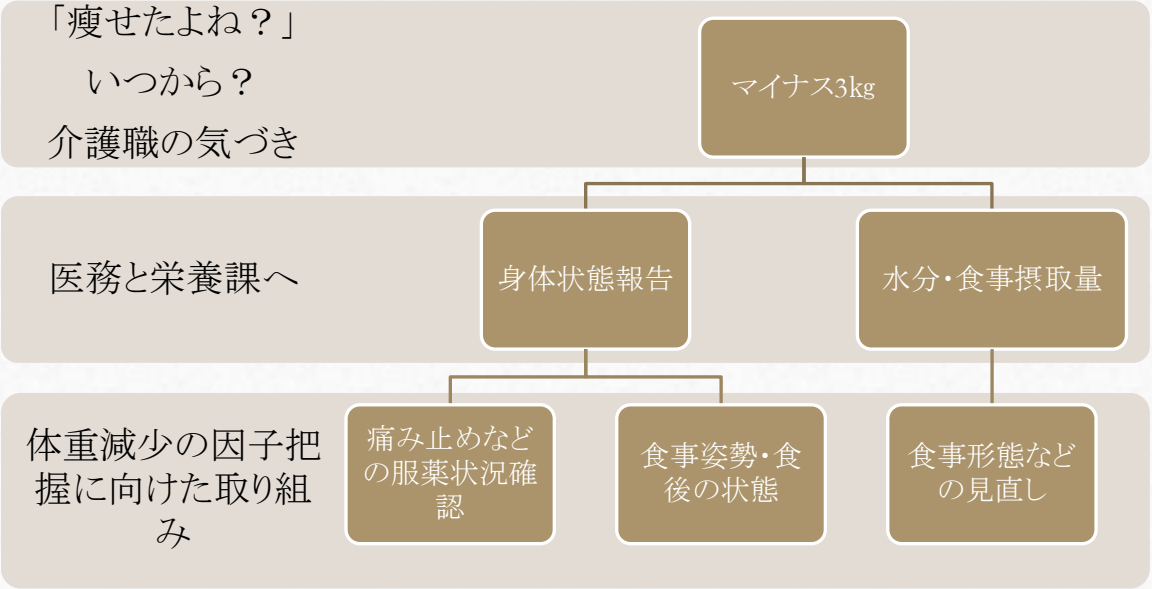
「数字に疑問、過去を振り返り、未来を考えていく」

介護職の【気づき】はその場限りではなく次へつなげていく大切な一歩であることの意識付け。利用者とかかわりケアを実践する中で介護職としての【気づき】や【評価】の重要性をコーチングできる介護リーダーの育成が組織として必要。介護職の気づきに根拠を付加し、関係部署へつなげていく。

介護職が中心となる【チームビルディング】の構築

数値から疑問や気づきが生まれ、関係部署へ確認を行う。
関係部署ごとの分析を結び付ける、介護職の知見の広がり。
疑問に対し考えられる要因を紐付けていく。

＜例：逆流性食道炎罹患後の状態変化＞



LIFEの今後

ステップ 1

介護職の専門性

ステップ2

チームビルディング

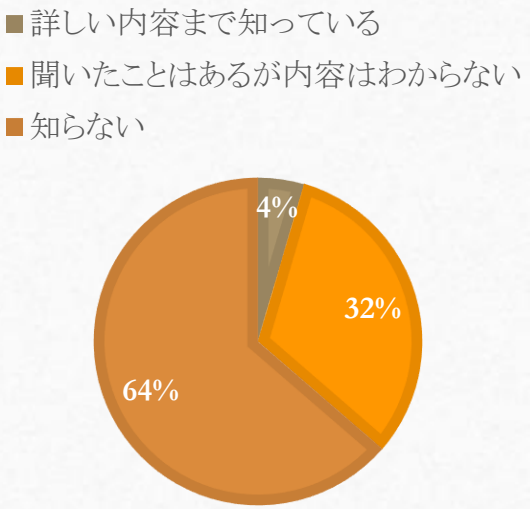
ステップ 3

入居者、ご家族への受益

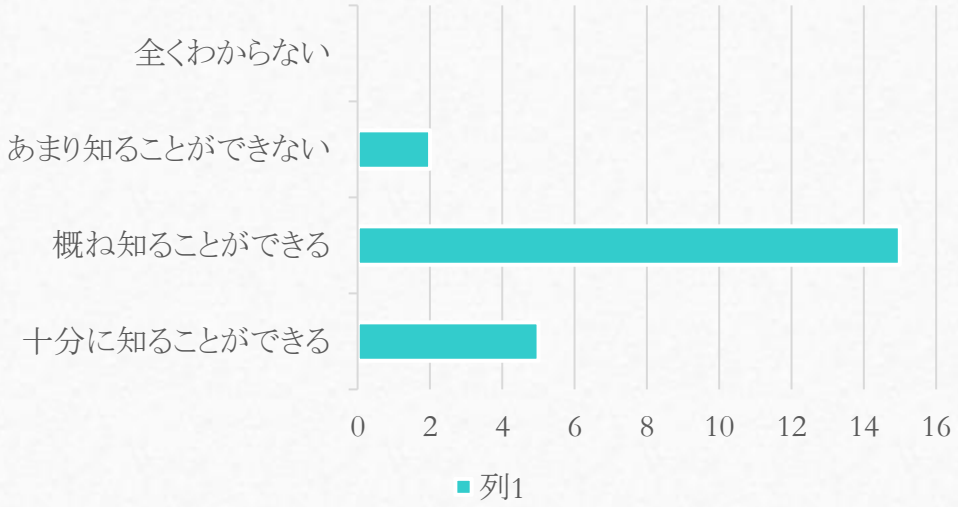
特別養護老人ホーム 菜の花

ご家族様アンケート

「科学的介護」「LIFE」といった言葉を知っていますか？



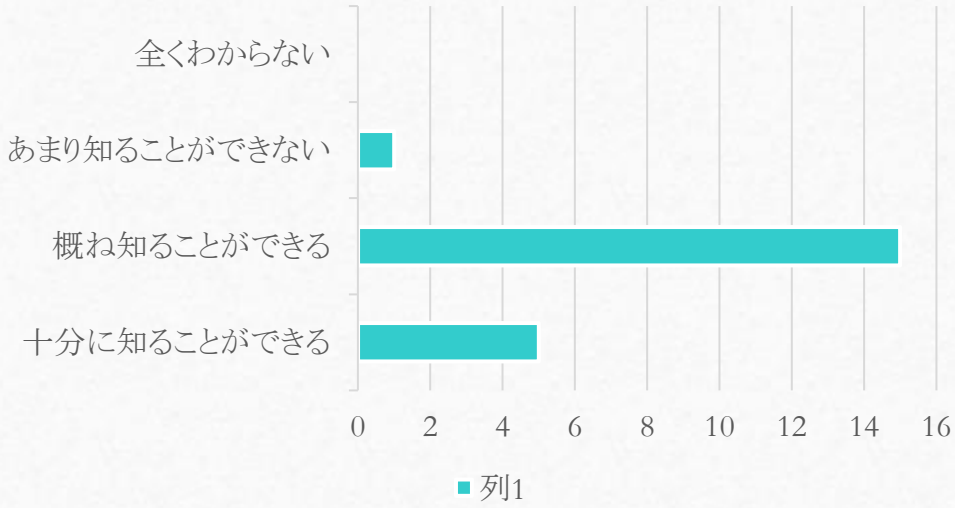
「自立支援計画書」をご覧いただき、様子をうかがい知ることができていますか？



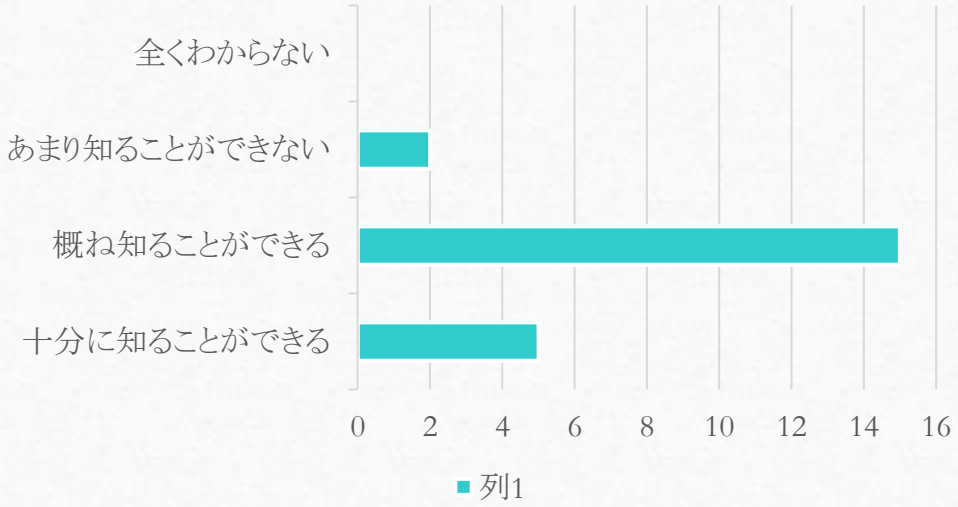
特別養護老人ホーム 菜の花

ご家族様アンケート

「褥瘡対策ケア計画書」をご覧いただき、様子をうかがい知ることができていますか？



「排泄支援計画書」をご覧いただき、様子をうかがい知ることができていますか？



特別養護老人ホーム 菜の花

「科学的介護」という言葉からどのような介護を思い浮かべますか？

- よくわからない（７名）
- 介護とは結び付かない、対極
- 同じ状況にあっても一人一人の体力などすべてを合わせて介護の仕方を考える
- 科学に裏付けされた介護。今まで良しとされ行ってきた介護方法を否定する場合もあるのでは？
- 理学療法のような医療的な介護
- 家族の愛情だけでは難しい行き届いた介護の可能性を感じます

- 従来の介護とは異なると思います
- 薬？
- 数字的データをもとになされる客観的な介護
- 身体の状態を数値にあてはめ計算された介護であり、寄り添った介護のイメージではない印象
- 目標などを数値化することにより目標の達成度を明確化し情報共有しやすくより良い介護に活かせると思う

- マンパワー不足を補うため今までと違うアプローチで介護の質を向上させること
- ロボットとか科学を使用した介護。内容がよくわからないのでこんなことしか思い浮かばない
- 機械的というイメージ
- 科学的根拠に基づいた介護（２名）
- 今回のアンケートで「科学的介護」「LIFE」を調べました。現在どのぐらいのデータが集まっているのでしょう

今後「担当者会議」で知りたいこと

- 本人の思いや様子　（１日の過ごし方、日常生活、現在の状況、率直な本人の要望や不満等）
- 科学的介護とはどんなものか？
- 特に注意していることや気にかけている事
- ターミナルケアの実態
- 食事の内容、機能訓練の様子
- 認知症になると意思の疎通が難しい、ゆったりとした環境、生活をどのように工夫されているのか
- 今後のケアの方針
- コロナの影響もあり様子がわかりにくくなっています。普段の様子が知りたいです

まとめ

LIFEを活用するにあたり、介護職の専門性、ケアの質の向上、チームビルディング（多職種連携）など様々な可能性が考えられます。

その反面、フードバック票をはじめとする、システム運用に対する不安や疑問も多々あり、正直まだまだ手探りの状態です。（令和５年６月３０日、事業所・利用者フードバック票の閲覧）

そのような現状ではありますが、LIFEの活用が施設内にとどまらず、近い将来、入居者様、ご家族様に向けて「ケアの指針の一つ」としてのツールとして生かしていけることを目標に今後も運用をおこなっていきます。 ご清聴ありがとうございました。